

## 審査の結果の要旨

氏名 秋山美紀

本研究は、脳卒中の患者を介護する介護者を対象として、支援獲得が介護者の負担感増加に伴う健康関連 QOL（以下、HRQOL）の低下を緩衝するという仮説のもと、介護者の介護負担感、獲得している支援と HRQOL の関係を、多次元の介護負担感尺度を用いて検討することを目的とした。多次元の介護負担感尺度は、我が国の現状に即した負担感が測定できるように、筆者らの質的研究の結果を踏まえて作成されたものであり、そのドメインは、時間的負担感、心理的負担感、実存的負担感、身体的負担感、サービス関連負担感の 5 つであった。検討の結果、下記の結果を得ている。

1. 西日本の 1 都市の 4 施設（1 病院、1 診療所、2 訪問看護ステーション）を利用している、脳卒中患者を介護する家族介護者 216 名を対象とし、精神的 QOL、身体的 QOL を従属変数にして、5 つの負担感、2 つの支援（公的支援獲得、私的支援獲得）をそれぞれ投入した 20 通りの階層的重回帰分析の結果、負担感と支援獲得の交互作用が HRQOL に有意に関連（ $p < 0.05$ ）したのは、4 通りであった。
2. 4 通りのうち、仮説を支持した結果は、精神的 QOL をアウトカムにした心理的負担感と公的支援獲得の交互作用の 1 通りだけであった。
3. 残り 3 通りは、すべて身体的 QOL をアウトカムとしており、負担感は、心理的負担感、実存的負担感、サービス関連負担感で、支援獲得はすべて公的支援獲得であった。
4. 残り 3 通りは、負担感と支援獲得の交互作用はみられたものの、介護負担感の増大に対し支援を多く獲得したほど HRQOL の低下が見られ、「支援獲得が、介護者の負担増加に伴う HRQOL の低下を緩衝する」という仮説に矛盾した結果であった。これは身体的 QOL の低い介護者がより高い支援を獲得した可能性も考えられる。

以上、本論文は、心理的負担感を持った介護者には、精神的 QOL の維持のために、公的支援が効果的であることが、多次元で測定することによって示された。また、今後は身体的 QOL を高めるための支援獲得を検討する必要があることも示唆された。

本研究は介護者の負担感を多次元で測定したことに意義があり、また、介護者の QOL 研究に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。